

# 六葉会 会報

2019年  
4月号



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>

表紙を  
飾る  
版画家  
大庭  
明子さん (23回生)



個展  
情報

2019  
4.1 - 4.30

KAWATA 屋本店内 ミニギャラリー  
埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野 296-4

表紙の作品介绍

BAND Z 2019年 木版画 15.5×15.9(cm)

「BAND Z」そんなバンドはいません。

実を言うと在学中文化祭で在学生たちのバンド演奏を見た記憶がありません。同級生には志してプロになった方もおられるので恐らく何かしらあったのではないかと思うのですが、...ただ後夜祭と称してなぜかキャンプファイヤーのような焚き火を囲み（恐らく文化祭のゴミを燃やしていた）実行委員のような人たちが集まって歌を歌っていたような、...そこで焚き火の周りを歩きながら朗々とギターを弾き語っていたのが、あの竹中直人さんだったのは鮮やかな記憶です。

大庭明子

1956 逗子市生まれ。東京造形大学絵画科版画研究室にて馬場栲男氏に師事、卒業。神奈川県美術展、日本版画協会展などで受賞。イビザグラフィック展('84)、ビトラ国際版画トリエンナーレ('94)、他に出品。文化庁芸術家国内研修員('85)を経、各地で個展開催。主な挿絵に山北宣久著『福音と笑いこれぞ福笑い』（教文館）、林あまり著『光を感じるとき』（教文館）、絵本に中川ひろたか・大友 剛著『ことばのくにのマジックショー』（アリス館）、荻田澄子著『にくまん どっち?』（アリス館）など。

<http://www.obaakiko.com>

C O N T E N T S

大庭さんプロフィール・作品介绍・個展案内・略歴 … 表紙	2	親子孫3代同窓生 ……………	10
会長挨拶 ……………	1	ミスインターナショナル ……………	11
校長先生挨拶 ……………	2	同期会レポート ……………	12
クラブ活動レポート特別版 ……………	4	親睦ゴルフ大会・お知らせ ……………	16
追悼文 ……………	8	67回生学年幹事総会・六浦祭のお知らせ……………	17
六浦祭 ……………	9	生徒募集……………	裏表紙

# 活躍する母校、関東六浦

六葉会会長 島根正隆（9回生）

六葉会の皆様いかがお過ごしですか。日頃より同窓会の諸活動にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが近づく中、最近は特にテニスをはじめフィギュアスケート、スキージャンプや卓球等スポーツ界の若い人たちの活躍で日本中に感動と喜びの明るい話題が多く見られます。

2019年3月1日第67回卒業の181名が新会員として加わり会員総数13,640名になりました。若い会員の皆様の積極的な参加協力で期待しています。六葉会は母校の発展向上に積極的に協力することを目的に毎年

六浦祭では生徒会に活動支援金を贈呈し生徒会活動を少しでもサポートできればと思っております。また卒業礼拝時に皆勤賞の卒業生（67回生は6年間1名、3年間9名）に記念バツヂと記念品を贈呈しました。

鉄道研究部が校訓であります奉仕の気持ちの中で、県立都市公園内で親子達を中心に楽しませるイベントに長年にわたる貢献度の高さと優れたボランティア活動が認められ、公益財団法人神奈川県公園協会より感謝状が贈られます。関東学院の外部への発信になれば六葉会にとっても大いなる喜びであります。



同窓会は母校の発展のために役員・会員一同一丸となって応援していきたいと思えます。今後とも会員皆様のご指導・ご厚情をよろしく願います。

お礼

東日本大震災から8年が経ちました。東日本大震災募金活動の被災地支援にご協力有難うございます。義援金は毎年3月と9月に日本赤十字社に届けています。一日も早い被災地の復興、復旧をお祈りいたします。

## — 温故「創」新 —

関東学院六浦中学校・高等学校校長

黒畑 勝男



学習指導要領が改訂されます。今回の改訂の特色は、学校が「何を教えるか」から生徒が「何ができるようにするか」への大きな転換です。2020年度大学入試から本格的な改革も始まり、教育観のパラダイムも変わるかもしれません。2015年の中央教育審議会初等中等教育分科会では、改訂の考え方として「予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となる」、「自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と『協働』しながら新たな価値を生み出していく」が打ち出され、新しい学びのあり方が提言されました。それを受け改訂では、「主体的・対話的で深い学び」が新しく提示されました。しかし、これは決して新しくはなく、欧米圏では30年も前から中心的な考え方でスタンダードな方法なのです。

日本の高度経済成長の後、周辺で

は中国や韓国、インド、ASEANがプレゼンスを大きくしてきました。2008年以降、若者たちの日本企業への就職者数も増えています。日本の技術力や国としての豊かさの総合力がまだ優位である魅力からでしょう。しかし、若者たちのグローバルスタンダードの習得とそのレベルや教育環境を見ると、その国々での国内の格差はあつても日本のそれらよりも高い傾向にあると言えます。ここに日本の経済界の焦りや危惧があり、その圧力が文科省を動かしたと言えます。

改訂はこれまでの教育を否定はしません。効率の高い手法での教育が国民に均質で高度な学力を育て、共通する考え方を形成し、質の高い労働者を育成しました。自らを「億総中流と呼ぶまで生活水準を高くし国力を高めました。しかし、その教育の

哲学に、膨大な情報から何が重要かを「主体的」に判断する力とその判断をする「主体性」を育てるという観点があつたのかという点と、それは否でしただけでなく、その言わぬ従順さが求められ、定型化された問題での解決力がその量とともに測られるのが教育。社会に出れば、協働は主体性や個性をほとんど認めない「競」働で、人はあらかじめ決められた目標には疑問を持たず、文句を言うこともなく「24時間働けますか」の人。教育観もこの方向性で、パラダイムが形成されてきました。こうした中で、今度の改定は、新たな時代への対応を目指す転換です。「自ら問いを立てて…他者と『協働』しながら新たな価値を…」とは、単なる競争力ではなく、予測困難な近未来の社会に生きていく力の育成を指しています。

交流先としているASEAN諸国

の教育制度は、大雑把に述べると移入と定着です。植民政策時代の宗主国との関係で英国などのカリキュラムが国民教育の中につきり浸透しています。グローバルスタンダードとしての教育観とシステムで学校が営まれ、英語は学校での教育言語となっています。一方、日本は富国強兵政策の時代から戦後も変わらず、独自で自前の教育を形成してきました。それが相対的にガラパゴス化を進めてきたわけです。知らぬ間にグローバルスタンダードの環境では後れをとってしまった。如美なのは英語教育です。ASEANではない韓国と中国も独自の教育体系を持っていますが、小学校の英語教育の開始は韓国が1997年、中国が2001年。日本は2011年です。

いまの学校の責任はかつて以上に10年後20年後の社会を見つめて教育

を行うことです。生産労働人口の縮小、AIとRPAの発達による就職環境の大きな変化、国内グローバル化のいっそうの進行を感知し、生き抜く力の育成を追求することです。本校の校長として5年を経ましたが、これを貫いて求めてきています。多くの取り組みで、社会の変化に対応できる学び方のための「気づき」と「主体性」の育成を進め、そして、他校と比べて圧倒的に手厚い英語教育を行っています。社会は予想以上の勢いで変化が進みます。10年後に社会に出る子どもたちには主体性を育てる視座と視点の示唆、そして視野の拡大の機会が必要です。キリストの教えを土台とする校訓に立ち、六浦の伝統を踏まえつつ、温故「創」新でプログラムを進めます。(2014年入職就任)

# 鉄道研究部 文部科学大臣賞を受賞！

毎母母校のクラブ活動の報告や案内などリポートのページを留意しています。今回は特別バージョンとして文部科学大臣賞を受賞した「鉄道研究部」を集めました。六浦祭での展示や出展先でのジオラマをご覧になった方も多いと思いますが、今回、文部科学大臣賞を受賞し、その時の様子や現役生徒の声と鉄道研究部のOBの喜びの声とともにご紹介します。

ものです。

今回の六浦中高の作品は、「夏の京都」というテーマで京都の街並みを細かく再現した作品に仕上げました。10名程のメンバーで4月くらいから本格的に製作を始め、約4ヶ月の

歳月をかけて完成しました。

製作のポイントは、「観ていて楽しい」と思わせるために臨場感であったり、雰囲気であったり・・・人を感動させる作品に仕上げたことです。

コンテスト直前、作業は急ピッチで進め、メンバーの粘り強い努力で前日までになんとか完成しました。

2018年8月4日、東京ビッグサイトにて「第10回 全国高等学校鉄道模型コンテスト」(文部科学省後援)が開催されました。関東学院六浦中学校・高等学校 鉄道研究部はこの大会に出場し、「モジュール部門」で文部科学大臣賞(第1位、最優秀賞)を受賞致しました。

コンテストは2009年から開催された、高校生を対象とするジオラマ模型の製作大会で、今回で10回目を迎えます。規定の大きさの中に、1/150サイズのミニチュア模型を作りこむというもので、中央には鉄道模型のレールが敷いてあり、他の学校様と作品同士を接続して模型の列車を走らせることができる



高校生を対象とするジオラマ模型の製作大会で

8月5日朝、表彰式が開催され、代表4名が出席しました。各賞が順番に表彰され、最後に最優秀賞として「関東学院六浦」の名前が呼ばれ、壇上にあがりました。関東学院六浦としては3度目の最優秀賞受賞となりました。

この作品への取り組みは、決してものづくりだけのことでなく、関わったメンバーが自分の役割を認識し、互いにコミュニケーションを円滑に

とり、さらにそれらが効率よく作業が進むよう上級生が統括し、精力を注いだ製作活動

が、今回の作品の仕上がりに表れています。



夏の京都の街並みを見事に表現

この最優秀賞に伴い、11月にはドイツ大会への出場、12月に代表の2名が神奈川県庁を訪れ、他校の参加者と共に県知事へ表敬訪問させて頂き、大会の報告を致しました。2019年1月には、金沢地区センターにて金沢区賀詞交歓会の場で区民栄誉賞の贈呈式が行われ、区長より賞状が授与されました。

2019年7月、第11回全国高等学校鉄道模型コンテストが開催されます。メンバーは1年生も加わり、昨年9月からすでに作業を始めております。次の作品も多くのメンバーで細かく手を加えた作品に仕上がる予定です。是非、皆様の応援よろしくお願い致します。

鉄道研究部顧問

高石智一

(43回生)



ドイツ シュツットガルトの大会会場



黒岩神奈川県知事を表敬訪問

第8代目前部長と現在の部長の喜びのコメントもいただきました。

### 仲間と協力

鉄道研究部に入学して学べたことの一つは「仲間と協力して製作することの強さと大変さ」です。特に今回の鉄道模型モジュールの製作を通して、仲間と協力して何かを製作することは一人ではできないことを可能にするということができて強く感じる事ができました。至る所に部員それぞれの出し合った意見やこだわりが詰まっており、結果としてその一つひとつが合わさり、日本のみならず世界でも評価していただけるような作品とすることができました。

しかし、それと同時に仲間と

協力して製作することの大変さも多く感じました。部員それぞれが各自の中で描いている製作したい作品像を、共有しながら全体としての一つの作品像にしていくのは簡単ではなく、時に意見がぶつかることもありましたが、それでも根気強く意見を

を出し合い、譲るところは譲り、こだわり抜くところはこだわり抜くというのを重ねていった結果、一つの作品像となり、それに向かって製作を進めていくことができました。

この先大学生、社会人と進んでいく中で、このような場面に巡り合うことは今よりもずっと増えると思います。そんな時に今回の学びや鉄道研究部での5年間の貴重な経験を生かし、周りの皆と協力してより良い方向へとしていけるような人間になれるよう努力していきます

たいです。

(第8代目前部長5年)

林田友佑

### 体験を通じて

自分が鉄道研究部に入学するきっかけとなったのは辻堂海浜公園での模型展示であり、「関東学院六浦」に鉄道研究部があるということを知り、鉄道模型コンテストでも優勝をしているという点で入学しようと思いました。最初は楽しくやろうと思っていたが入学しましたが、学年が上がるに連れ、後輩の指導をすることが増え自分が1年生のとき先輩方もこういう気持ちだったんだなうなんて思うときもありました。入学してからもたくさん学ぶことがありました。たとえばイベント。神奈川、東京を中心

とするショッピングセンターや地域のお祭りなどで出展させてもらい中学生では通常体験できない「大人の世界」を体験でき行ったことのある場所だと裏側はこんな風になっているんだとかいつもわくわくしながらイベントに参加させて頂いています。お客様が喜んでいただくととてもやる気が起きます。これからも鉄道研究部を残していくためにメディアやSNSなどを活用し、本校の鉄道研究部の名前を広めていき活躍の場を広げていきたいと思っておりますのでこれからも応援宜しくお願い申し上げます。

(第9代目・現部長4年)

川地健斗

楽しみながらも様々な体験をしてきた成長の過程が見えるような気がします。同じような体験を通して夢に向かって頑張っている鉄道研究部のOBにもお話を聴いてきました。

夢に向かって

私は鉄道研究部を設立したメンバのひとりです。小さいころから鉄道が好きで「将来の夢は」ときかれたら迷わず「鉄道乗務員」と答えていた子どもでした。

今では多くの部員が鉄道研究「部」ですが、設立当時は「愛好会」という小さな集まりでした。部員は数えるほどしかおらず何もないゼロからのスタートでしたが、だからこそいろいろなことに挑戦することができました。5インチゲージ(人が乗ることがで

きる常陽鉄道)も当初は扱ったことがある部員はおらず、まったく知識、経験がなかったため人を乗せて走ることはおろか、ともに車両を動かすことすらできずとても苦労しました。研究を重ねながら設計、開発した自作の車両にたくさんの人を乗せて走らせることができるようになりました。そうして作った5インチゲージや鉄道模型をイベントに持ち出し、展示することで多くの方に自分たちの作品を楽しんでいただくことができました。中には私たちの活動を観て本校に入学してきた部員もおり、自分たちの活動に共感した人たちが仲間となり鉄道研究部が大きくなっていくのは大きなやりがいにもなってきましたしとても充実した毎日をご過ごすことができました。

私は昨年度より関東にある

私鉄会社に就職し、駅員として働いています。業務はお客さまへのご案内をはじめ、駅構内の清掃や点検、その日勤務する駅員のための食事作りなど多岐にわたりとてもハードな仕事ですが、昔から変わらない「鉄道が好き」という思いと「鉄道乗務員になる」という夢に向かって日々励んでいます。部を設立した身としては、部が存続しているだけでも嬉しいのですが、文化祭やイベントなどへの出演やコンテストでの優勝など、活躍している姿を見ると誇らしく、また自分のことのように嬉しく思います。ぜひ現役部員の皆さんには鉄研を大いに楽しんでもらい、卒業しても「関六の鉄研に所属して良かった」と思っ て頂けたら嬉しいですよ

古賀恭平(62回生)



古賀恭平さん(62回生)

他にもたくさん卒業生が夢に向かって活躍していることと思います。鉄道研究部以外のクラブ活動でも様々な取り組みや実績がたくさんあることでしよう。次回以降でも母校のクラブ活動をレポートしていきたいと思っています。紹介などもあればお話を聴きに行きたいと思っています。

## 伊藤清先生を偲んで

山本 維行（4回生）



ご専門の日本史の授業は勿論のこと、課外活動でも、教えて頂くことが数多くありました。

また、卒業後も先生を囲んで有志が、

高校卒業式直後昭和

31年3月伊豆下田への旅行、その翌年8月、

会津磐梯山への旅行と楽しかった思い出と同時に、

我々4回生と先生との距離は益々近いものとなりました。

私も大学生時代から、鎌倉のお宅にも伺い、

大変お世話になりました。振り返ってみれば長いお付き合いをさせて頂きました。

その先生も平成27年を最後に、我々の同窓会には、

ご出席も叶わなくなりました。その同窓会も我々の

高齢化もあり、平成29年を最後に閉会となり、

そして、期せずして翌平成30年3月7日、

先生のご逝去の報に接しました。約60年を超える

長きにわたってご指導、ご厚誼を賜りました私に

とって先生のご逝去はまさに一つの時代の終わりを告げるものでした。

ここに、これまで頂きましたご指導に深く感謝しつつ、

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

六葉会ホームページから伊藤先生の動画をご覧いただけます

伊藤先生の動画をご覧いただけます



伊藤清先生は、平成30年3月7日、ご逝去されました。享年91歳でした。謹んで哀悼の意を表します。伊藤先生が関東学院に新任の先生として赴任されたのは、昭和26年の新学期で我々4回生が中学2年生の時でした。真新しい背広で凛々しいでたち、それとは逆に靴下の綻びの大きな穴(当時のワールの靴下はすぐ穴が開きます。これが先生のトレードマークとなりました)、そして愛称「ブーサン」の所以となった佐渡のお国訛りとともに伊藤先生を偲ぶ同期生の語り草となっています。

当初こそ先生と生徒の関係でしたが、我々とは年齢も近く(我々4回生とは丁度10歳違いでした)、飾らないお人柄で、あつという間に良き兄貴分として皆から慕われ、多感な思春期の我々に多くの示唆を与えていただきました。

その思い出の二三をご紹介します先生を偲ぶ縁としたと思います。

## 福田先生

ありがとうございます

繁田(有馬)恒子(20回生)



福田先生ありがとうございました

生徒の時は、もちろん卒業してからも、先生のお宅と近かった事もあり、お宅にうかがい、美味しい紅茶を入れてくださって、最近の事・昔の事などを話して下さいました。いつも聖書を片手に色々話して下さい、素敵なリビングで心が落ち着いたり楽しくなったり、又反省しながら帰ったこともありました。同窓会の話しを良く聞かさせて頂いたが、そのうち先生が杖で歩いているのをみかけたのでお宅に伺うと、杖について家事を行ったり、普通のようにに庭の掃除を行っていました。

お話をすると口調は昔のように信じて、まっすぐに決めた事を行い、まっすぐの先生だったように思います。

高校の時には、髪を伸ばした男子生徒にピンでその子の髪をとめたり、皆ごくお世話になったでしょう。毎日どれだけ忙しい日々だったでしょうか。

本当に感謝しています。

平成31年1月25日ご逝去

# 六浦祭

2018年も六浦祭が開催され母校を懐かしむ  
卒業生がたくさん観に来られていました



入り口の大きな看板



「六葉会の部屋」



受付準備風景

10月26日(金)27日(土)の2日間、六浦祭が開催されました。26日は曇りで秋晴れの日の開催というわけではありませんでした。様変わりした金沢八景駅前を通り抜け、学校までは平潟湾沿いを歩くと潮風の香りが心地よく、在校生の頃を思い出しながら懐かしい気持ちになりました。

六浦祭では日頃の学習活動や文化祭の展示、また有志団体による様々な発表があります。

その中で私たち六葉会は新館2階の教室をお借りして、OBOG等の方々の休憩の場をご用意いたしました。当日は色々な年齢の卒業生にご利用いただきました。初めてお目にかかる方のほうが多くなるのは当然のことなのですが、同じ学校の卒業生同士という親しみから和やかな雰囲気の中、ご挨拶ができました。

そのような中で思いがけない同級生にも

会うことができました。最初はお互い年齢を重ねているのはつきりと誰だかわかりませんでしたがお話をしていく内に思い出し懐かしくなりました。何だか少し恥ずかしいような、そしてうれしい気持ちにもなりました。

今年の六浦祭のテーマは「SODA」です。学生時代はソーダ水のように、あつと言う間にパチパチとはじて消えてしまいます。ただ爽やかで甘酸っぱい刺激は一生忘れられない後味として残ります。

皆さまも六浦祭に来ていただき、ソーダ水を飲んで再び学生時代の爽やかで甘酸っぱい気持ちを甦らせませんか？私たち六葉会も皆さまを心よりお待ち申し上げます。卒業生の皆さま、次回の六浦祭には是非お越しください。

津村美実(30/回生)



島根六葉会会長から生徒会長へ  
金一封の贈呈です

# 親子孫三代同窓生

2018年の六浦祭で六葉会の部屋で出会うご家族にお話を聞いてみました。2013年の会報裏紙に掲載させていただいたことがありますが、他にもたくさんご家族で関東六浦の卒業生というご家族がいっぱいいらっしゃるようです。ご家族みなさま今回の取材に快く応じていただき原稿をお寄せいただきました。

私が関東学院六浦中学・高等学校に在学したのは昭和36年から42年の6年間です。古文の石田先生、英語の泉先生方を懐かしく思い出します。又球技大会の時から丸となり勝利したいとの思いで練習した事等思い出します。当時男子制服は紺色の詰襟と帽子で現在とは全く違います。在学中校訓の「一人になれ奉仕せよ」の教えを学び人生の教訓にしました。

富澤信行(15回生)

15回同級生同士のご夫婦、奥様からもコメントをいただいています。お会いした際には関東学院に通われていたところのお話を懐かしそうに話されていたのがとても印象的です。

卒業時の担任の先生は、信行さんは泉先生、奥様のひろ子さんは藤田先生だそうです。

高校からの3年間関東学院六浦で過ごしました。高校からは女子3名、男子も数名でしたが皆優しく受け入れてくれました。礼拝堂、賛美歌、聖書の時間はどれも新鮮で興味深かったです。3年間はあっという間で楽しい思い出が沢山あります。卒業後、結婚して子供が誕生し文化祭を訪れた時、あたたかい学校はそのままで是非入学させたいと思いました。

富澤(加倉井)ひろ子(15回生)

ご両親が自分と同じ学校の卒業生の41回生、福永(富澤)里織さん、お母様と一緒を楽しむことにお話をされ、現在娘さんが母校に通われていることについてもたくさんお話していただきました。里織さんの卒業時の担任の先生は澤先生です。

私は中学、高校6年間関東学院六浦でも充実した学生生活を過ごしました。帰り道友達と時間を忘れる程お喋りをしたこと、六浦祭で協力し合い出店をしたことなど楽しい思い出ばかりです。控え目だった娘をどんなことにも努力を惜しまず取り組めるように指導して下さった事、親としても嬉しく感謝しております。昔とは変わってしまった所もありますが、いつも生徒の事を一番考えて下さる先生方の存在は昔のままで、娘を入学させて本当に良かったと心から思っています。

福永(富澤)里織(41回生)

小学4年生の頃、母が突然こんな話をしました。「私とおじちゃんとおばあちゃんとは、同じ学校へ通っていたんだよ。楽しかったな。」何に対しても興味を持ってなかった私にとてこの話はとても心惹かれるものでした。その後、関東学院六浦のオープンキャンパスや部活体験など様々な行事に参加をして益々この学校に魅力を感じ、通うことが出来たら楽しいだろうなと思うようになり受験を決めました。在校生として優しい友達に恵まれ、勉強では苦戦しながらも充実した学校生活を送っています。この学校へ導いてくれた母に感謝すると共に、残り一年の学校生活を全力で楽しみたいと思います。

福永紗也(6年生)

2018年の六浦祭でたまたま声をかけさせていただいたところからのご縁です。富澤さん、福永さんありがとうございませう。他にも親子孫、曾孫さんまで・そろそろ出会えるかもしれないですね。六浦祭ではこんなうれしな出会いも待っています。



とても仲良しなご家族でした

## ミス・インターナショナル2019 ファイナリスト

同級生のみならず多くの同窓生の中でも話題になった65回生の柏木みなみさんをご紹介します。生徒会長も務め、在学時から人気もあり明るくて活発な柏木さん、ご本人にコメントをいただきました。

### 「Stay hungry, stay foolish.」

#### 柏木みなみ



初めまして。第65回卒業生の柏木みなみです。タイトルのフレーズをご存知の方も多いと思いますが、Steve Jobs氏の言葉です。在学4年次の夏、初めての海外渡航であった、アメリカ短期留学プログラム参加時に、何度も励まされたこの言葉に背中を押され、昨年の夏、「ミス・インターナショナル2019」という日本の3大ミスコンテストに挑戦しました。

応募した経緯は、普段の大学生活では巡り合わない人々との出会いと新しい経験を得たいと考え、またミスコンテストと

いう文化に憧れを抱いていたためです。

応募にあたり、高校1年生の私も昨年の私も同様、不安が足を引っ張りました。そんな時、冒頭の言葉をふと思い出したのです。「恐れず、考える前にやってみろ！」そのように捉えた私は未知の世界に飛び込む事にしました。案の定、一般大学生はごく少数で、他の芸能関係者に揉まれつつ自信を無くす場面もありましたが、今となつては「私らしさとは何か？」を追求するための究極の体験であったと感じています。

この経験を通して、少しでも興味関心のある物事に取り組む重要性和、全力でやり切った後の揺るぎない自信は財産であることを学びました。

最後になりますが、「六葉会」への寄稿の機会を与えてくださった関係者各位に御礼申し上げますと同時に、関六で得たチャレンジ精神を活かして今後も一層活躍できるように努めて参ります。

# 2018年度 同期会レポート

2018年度もたくさんの卒業生が同期会、クラス会が行われ懐かしい顔ぶれが集まりました。六葉会に連絡いただいたものを会報に掲載させていただきます。六葉会では通信費補助を差し上げ、住所録の用意をさせていただいております。同窓会、クラス会、OB会など開催の際にはご連絡ください。

六葉会への連絡はお手数ですが、間違いを防ぐために六葉会ホームページよりメールでご連絡をお願いしております。

- ・開催日時
  - ・開催場所
  - ・お見えになった先生方のお名前
  - ・お集まりになった人数
  - ・集合写真
- 以上を一言添えてご連絡ください。

## 2 回 生

2018年4月20日に同窓会を実施しました。

第2回生同期会は4年前から春夏秋冬の年4回開催に進化(?)していますが、原則として予めの出欠は取らない形式です。但し、この4月に開催の際は、お店との関係もあって予め出欠を得て開催しました。今年の会合には22名の出席があっ

て男女数が丁度半々でした。高校卒業時は男性の方がかなり多かったのですが、最近では女性の方が元気な方が多いようです。毎回出席者数は当然ながら減少傾向にありますが可能な限り年4回の開催を続けて行きたいと考えています。



中華街・順海閣本店にて

## 44 回 生

2018年4月28日(祝土)に44回生(1996年卒業)の合同同窓会を開催し

ました。学年主任の佐々木智子先生も参加され、盛会のうちに終わりました。次回は2020年9月を予定しています。



## 1 回生

5月16日(水曜日)12時～15時、恒例の関東学院六浦高等学校一回生の会を横浜崎陽軒本店3Fにて、男性19名及び女性7名、26名が出席して開催しました。

今年の干支は“戌”で私達の殆どは第7回目の年男・年女です。私たち超高齢年齢ですが、年齢を感じさせない元気活発で、3時間が短く感じるほど盛り上がり、最後に集合写真を撮るため一か所に集まった時、大西義昭さんが『今日は私にとって最も楽しくそして幸せな一日でした。有難うございました。』と皆さんに挨拶しました。来年の一期会に出席出来るよう、この一年お互いに自愛しましょうと約束し、散会しました。



## 11 回生 4 組クラス会

2018年5月29日(火)横浜崎陽軒本店において関東六浦高校11回生4組クラス会を開催いたしました。卒業して55年になりましたが、遠く鹿児島や奈良からの参加もあり22名の出席者がありました。恩師の泉健也先生がお亡くなりになって20年近くになりますが、いまだに多くの参加があり、高校時代の思い出話で盛り上がり楽しいひと時を過ごしました。また、2年後の後期高齢者になったころに再会することを約束して閉会となりました。



## 3 回 生

三暉会(三期生の同窓会)を、11月6日正午よりホテルキャメロットジャパン横浜で行いました。

前回までは、40人弱の参加者が続いていましたが今回は20名という、人数的には



寂しい規模になりました。参加申し込みはもっと多かったのですが、急に配偶者が入院したとか、会場に向かっているときに転倒して怪我をしたなど、我々の年齢を感じさせられる会となりました。しかし、参加者は互いの元気を喜びあったり、体調不良を慰めあったりと、楽しいひと時を過ごしました。

今後も細く長く続けてゆこうと確認し、3時に閉会しました。

## 12 回 生

毎年11月第二日曜日に開催が決まっている同窓会を11月11日(日)に横浜そごう10Fホテルオークラサファイアで行いました。国近先生に参加いただき遠くは京都・神戸から駆け付けけた友を含め52名の参加があり楽しいひと時をすごしおおいに盛り上がりました。

次回は2019年11月10日(日)です参加お待ちしております。

学年幹事 森 孝久

## 10 回 生



2018年11月20日に東戸塚第一生命研修センター「天空のオアシス」で10回生の学年同窓会を行いました。後期高齢者になった記念として5年ぶりに開催し44名が参加しました。先生は4人とも天

に召され、友人達も40数名が召天して  
おります。

10  
回生幹事 森山 欽生



## 65 回生

成人式の間行われた2019年1月14日(月曜日)18時30分より、ヨコハマインターコンチネンタルホテルベイブリッジカフェテリアにて第64回生の同窓会を行いました。

秋吉和史先生、芹田祐一先生、松本圭介先生、佐藤雅一先生、鈴木一広先生、松岡園子先生、鈴木由美子先生、佐々木涼先生、8名の先生方と103名の同級生が集まりました。言葉では表すことのできないぐらい、とても楽しかったです。今回の同窓会では、歓談の時間を多く取ろうと思いい、催し物は短時間で終わるものにししました。その後、先生方から、お言葉を頂き、集合写真を撮り、お開きとしました。卒業してから2年経ち、成人になりお酒を飲んで先生方とお話をしたり、同級生とお話したりすることは、とても新鮮で楽しい時間でした。私は大学に進学しましたが、2年経った今でも関東六浦の同級生といるとても安心することができます。それは、中学、高校の6年間毎日一緒に学校生活を送ってきた仲間は、一生の宝物だからだと思います。久しぶりに会う同級生もいれば、よく会っている同級

生もいたと思います。そんな中、面白い話をしたり、現状の話をしたりと笑いの絶えない会だったと思います。今回は成人式という大きな節目であったことから、多くの同級生が参加してくれたと思います。この先、大きな節目は無いかもしれませんが、誰でも気軽に参加のできる同窓会をこれからも開催したいと思います！





# 六浦祭

2019年10月25日(金)～10月26日(土)

今年も六浦祭が開催されます。新しい母校の校舎や催し物、模擬店を見に是非足を運んでください。毎年たくさんの卒業生が見学に来られ懐かしみながら楽しんでいきます。私たち卒業生は応援団として現役生徒たちの力強い味方になっています。2日間六葉会では「六葉会の部屋」でお茶とお菓子を用意してお待ちしています。動画や懐かしい卒業アルバムを見ながら中高生にもどってみませんか。是非お気軽にお立ち寄りください。

● 学校には駐車場がありませんので越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

## 六葉会 2019 年度総会のご案内

2019 年  
5月17日  
金曜日

19時より  
母校本館 2階会議室

六葉会では毎年、卒業生のご意見を頂ける場として総会を開催しています。昨年度の報告や新年度の計画などの報告や審議を通して六葉会が母校や卒業生の発展に貢献できるよう努力しております。例年土曜日の日中に開催していましたが今年度は金曜の夜の開催としました。お仕事帰りになる方もいらっやるとは思いますが是非ご参加ください。

宗教主任による略式礼拝で始め、総会ののち食事をご用意いたします。関東学院六浦で学んだ方であればどなたでもお気軽にお越しください。

## 六葉会67回生学年幹事の紹介

1組	藤田 佳乃子	山下 稚加
2組	藤田 翔馬	縄田 陸
3組	加藤 百恵	清水 郁賀
4組	高山 透	田中 壮真
5組	笠原 楓生	高戸 美紅

クラス会や同窓会の開催の際にご連絡ください。  
六葉会ホームページからアクセスできます。

※最新の住所録をご用意します。  
※通信費の補助金を差し上げます。

■関東学院六葉会 〒236-8504 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 TEL.045-781-2525

印刷：株式会社エイコープリント 2019.4

# Your Gateway to the Future Let's make a day of it with **Mutsuura**



CLIL 5年目の深化  
新しい英語教育



ICT教育の充実  
Chromebookの導入



体験から学ぶ  
選択制グローバル研修

関東学院六浦では  
**中学入試・高校入試**  
を行っています

